令和５年度

研究全体構想図

笠松町立下羽栗小学校

【国語科における今日的課題】
文における主語を捉えることや，文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること，目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることに課題がある。

【学校の教育目標】

ひとりだちのできる子

よく考える　助け合う　やりぬく

【音楽科における今日的課題】
音楽に対する感性を働かせ，他者と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見出したりする力に課題がある。

【児童の実態】

〇既習の学習内容を生かして、説明文を文章全体の構成や挿絵･資料から読み取る力がついてきた。
〇課題に応じて異質･同質の協同学習を仕組んだことで、協同学習が活性化し、より深く追究できるようになってきた。
●協同学習の中での関わり合いがまだ弱い。(「分からない。」と言える児童が少ない。)
●聞く力が弱いため、仲間の発言を受け止め、自分の考えを再構築しながら仲間と深め、広げていく力に課題がみられる。

【児童の実態】

〇既習の音楽的要素を生かして，見通しをもって学ぶことができるようになってきた。
〇奏法や表現の仕方に対して，思いや意図をもち，協同学習で仲間と練り合うことで，思考を深めたり，技能を高めたりすることができるようになってきた。
●仲間との交流の中で，実際の演奏と音楽的要素を関わらせて，豊かに表現する力が弱い。

聴き合い，学び合う授業の創造

【　願う子どもの姿　】

【　国語部　】

仲間との学び合いの中で，「分かった」「できた」喜びを実感できる子

・課題に対し，既習の学びを最大限に生かして，自分の考えをもつことができる子
・仲間と互いに考えを伝え合うことを通して，より深く自分の「読み」を追究することができる子

【　音楽部　】

仲間との学び合いの中で，思いや意図をもち，豊かに表現ができる子

・曲の仕組みや音楽的な要素を手がかりにして，自分の思いや意図をもつことができる子
・仲間と互いに思いを伝え合ったり聴き合ったりすることを通して，自分の感性を広げて，より豊かな表現を目指し追究することができる子

研究仮説
本時のねらいを絞り，焦点化した課題を共有し，全員が参加できる協同学習を位置付けることで，より深い「読み」に気付き，「分かった」「できた」喜びを実感することができる。

研究仮説
本時のねらいを絞り，焦点化した課題を共有し，全員が参加できる協同学習を位置付けることで，思いや意図をもち，感性を広げて，より豊かに表現することができる。

研究内容Ⅰ：主体的な学びを生み出すための指導構想の在り方
①単元・題材指導計画における協同学習の位置付け
②単位時間における協同学習の仕組み方
・ジャンプ課題（国語），ジャンプ活動（音楽）の設定の仕方
・仲間と学びを共有するための協同学習の在り方

研究内容Ⅱ：どの子も「わかる」「できる」ための指導・援助の在り方
①全員が課題解決に見通しをもつための指導・援助の具体化
（焦点化・視覚化）
②課題を追究するために必要な個への指導・援助の具体化
（指導・援助のフローチャート）